

課題確認テスト

国語科

1～20の上の句につながる下の句を正しく選び、A～Tの記号で答えなさい。

上の句

1. 秋の田の かりほの庵の 苫をあらみ
2. 春すぎて 夏来にけらし 白妙の
3. 田子の浦に うち出でてみれば 白妙の
4. 奥山に 紅葉踏み分け 鳴く鹿の
5. 天の原 ふりさけ見れば 春日なる
6. 天つ風 雲のかよひ路 吹きとぢよ
7. 君がため 春の野に出でて 若菜つむ
8. このたびは ぬさもとりあへず 手向山
9. みかの原 わきて流るる いづみ川
10. ひさかたの 光のどけき 春の日に
11. 人はいさ心も知らず ふるさとは
12. かくとだに えやはいぶきの さしも草
13. 滝の音は 絶えて久しく なりぬれど
14. 大江山 いく野の道の 遠ければ
15. 夜をこめて 鳥のそら音は はかるとも
16. さびしさに 宿を立ち出でて ながむれば
17. わたの原 漕ぎ出でてみれば 久方の
18. ほととぎす 鳴きつる方を ながむれば
19. 村雨の 露もまだひぬ まきの葉に
20. ももしきや 古き軒端の しのぶにも

下の句

- A. 衣ほすてふ 天の香具山
- B. 三笠の山に 出でてし月かも
- C. 富士の高嶺に 雪は降りつつ
- D. 霧たちのぼる 秋の夕暮れ
- E. 雲居にまがふ 沖つ白波
- F. いつ見きとてか 恋しかるらむ
- G. 花ぞ昔の 香にほひける
- H. さしもしらじな 燃ゆる思ひを
- I. しづ心なく 花の散るらむ
- J. わが衣手は 露にぬれつつ
- K. 声聞くとときぞ 秋は悲しき
- L. いづくも同じ 秋の夕暮れ
- M. ただ有明の 月ぞ残れる
- N. 紅葉のにしき 神のまにまに
- O. 乙女の姿 しばしとどめむ
- P. よに逢坂の 関はゆるさじ
- Q. なほあまりある 昔なりけり
- R. わが衣手に 雪は降りつつ
- S. まだふみもみず 天の橋立
- T. 名こそ流れて なほ聞こえけれ

作者

- 持統天皇
阿倍仲麻呂
山部赤人
寂蓮法師
藤原忠通
藤原兼輔
紀 貫之
紀 友則
天智天皇
猿丸太夫
良暹法師
菅原道真
藤原実定
僧正遍正
清少納言
順徳院
光孝天皇
小式部内侍
藤原公任

注 ふりがなは、読みやすさを考えて、現代仮名遣いにしてあります。

← 解答欄

上の句	下の句
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	